 平成 30 年度(第 73 回)文化庁芸術祭主催公演  
 新国立劇場 2018/2019 シーズンオペラ 開幕公演

ヴォルフガング・アマデウス・モーツァルト

# 魔 笛

<新 制 作>

## Die Zauberflöte

2018 年 10 月 3 日(水)~10 月 14 日(日)

会場:新国立劇場オペラパレス チケット発売中



La Flûte enchantée (Die Zauberflöte) by W. A. Mozart © Elisabeth Carecchio - Festival d'Aix-en-Provence 2009

### 大野和士・新芸術監督シーズン開幕！

### 魔法の笛が導く夢の世界。永遠の名作『魔笛』のケントリッジ版が日本上陸

大野和士新芸術監督による第 1 シーズンは、モーツァルト不朽の名作『魔笛』の新制作で開幕します。

珠玉の音楽が綴るおなじみの愛と冒険のファンタジーを、現代アートの巨匠でオペラ演出でも世界を席卷しているウィリアム・ケントリッジ演出のプロダクションで上演します。素描とアニメーションを用いた美しく神秘的な舞台は、モネ劇場を皮切りに、ミラノ・スカラ座、エクサンプロヴァンス音楽祭など、世界中で大人気を博したものの、ケントリッジの哲学にもとづいた朴訥な舞台は、友愛の精神に満ちあふれ、深い感動を誘います。

ヨーロッパでの豊かな経験を持つ大野新監督が力を入れるのが、旬の演出家の日本への紹介です。特に、ヴィジュアルアートと結びついて音楽の流れや作曲家の意図を視覚化する演出は、現在の世界のオペラ演出の大きな潮流であり、日本にぜひ紹介したいと温めていたと言います。「現代性を保ちつつ、音楽を裏切らない美しい舞台を」という大野の願いが結実したくケントリッジの『魔笛』>に、ぜひご期待ください。

<資料・写真のご請求、ご取材のお問い合わせ>

新国立劇場 制作部オペラ 広報担当 高梨木綿子

Tel:03-5352-5733/Fax:03-5352-5709/E-Mail: takanashi\_y2525@nntt.jac.go.jp

## 魔法の笛が導く夢の世界。永遠の名作『魔笛』のケントリッジ版が日本上陸

大野和士新芸術監督の就任シーズン開幕に選んだのは、モーツァルトの傑作『魔笛』。“ジグシュピール(歌芝居)”として有名な『魔笛』は愛と冒険のファンタジーで、世界中で多くの子供たちが『魔笛』でオペラ鑑賞デビューを飾っています。「おいらは鳥刺し」「パ・パ・パ」といった親しみやすい曲、はたまた夜の女王の歌う有名なアリア「地獄の復讐はわが心に燃え」など、音楽にも聞きどころが満載で、次々に美しい曲が繰り出される様はまさに“音の宝石箱”のようです。

今回の上演にあたり大野新監督が選んだのは、南アフリカ出身の現代美術家ウィリアム・ケントリッジの大成功プロダクション。プロジェクションを大胆に取り入れる演出の先駆けとなったこのプロダクションは、2005年のブリュッセル・モネ劇場を皮切りに、ミラノ・スカラ座、エクサンプロヴァンス音楽祭など、ヨーロッパはもちろんアメリカ、アフリカ各国まで世界中で大人気を博しました。

モネ劇場音楽監督、リヨン歌劇場首席指揮者などを歴任し、欧州最先端のオペラを経験している大野新監督が就任第1作に選び、「音楽を裏切らない、美しい舞台」と太鼓判を押す<ケントリッジの『魔笛』>にご期待ください。



### ケントリッジの独自の世界と『魔笛』



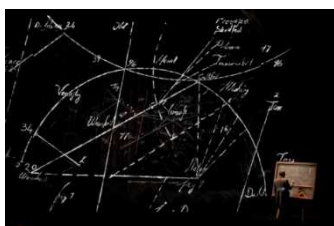
ウィリアム・ケントリッジ Photo by Marc Sphoul

ウィリアム・ケントリッジは、南アフリカ・ヨハネスブルク出身のビジュアルアーティスト。ドローイング(素描)やアニメーションフィルム、演劇活動やオペラ演出で国際的に評価されています。日本では2009年～10年に京都国立近代美術館、東京国立近代美術館、広島市現代美術館で大規模な展覧会「ウィリアム・ケントリッジ——歩きながら歴史を考えるそしてドローイングは動き始めた……」が開催され、注目を集めました。2010年には「素描とアニメーション等を融合させた新しい表現メディアを創出し、独自の世界を切り拓いた芸術家」として、京都賞を受賞しています。

ケントリッジの活動は様々な手法やジャンルが融合したもので、その中心を占めるのは、木炭やパステルで描いたドローイングを書き消し、わずかに書き直して、ドローイングとカメラの間を何百回と往復しながら1コマずつ撮影するという、まるで映画の技術史を遡るかのような作業で制作された映像作品です。また、作品には植民地主義やアパルトヘイトといった南アフリカの負の歴史も色濃く反映し、善と抑圧、個人の精神の矛盾などをめぐる洞察が、気の遠くなるほど膨大な製作プロセスの中に刻まれているのです。その作品は、動くこと、空白の時間、そして思考の飽くなき積み重ねによって制作されているとも言えます。



ウィリアム・ケントリッジ Photo by Marc Sphoul



ケントリッジのオペラ演出の出世作となった『魔笛』では、人間性の影と光を対比させる素朴な映像美、そして舞台からあふれ出すケントリッジならではの深い知性とポエジーが作品の本質を伝えます。ケントリッジ版『魔笛』は2005年にモネ劇場、リール歌劇場(フランス)、ナポリ・サンカルロ歌劇場、カーン歌劇場(フランス)の共同制作によって初演され、その後アフリカ、アメリカ各国まで世界中で大ヒットとなり、シャンゼリゼ劇場(パリ)、ミラノ・スカラ座、エクサンプロヴァンス音楽祭などでも上演されました。ケントリッジの『魔笛』は友愛の精神に満ち、ケントリッジの「人を愛する」という思想と『魔笛』が結びついた舞台です。一方で、この演出では『魔笛』が内包する啓蒙思想に植民地主義を通して光を当て、「善」や「力」についての洞察が込められています。全編に散りばめられた様々な象徴を読み解いていく面白さもあり、「『魔笛』は何十回も観た」という方々も決して飽きさせません。ケントリッジは『魔笛』の後、メトロポリタン歌劇場での『鼻』(2010)、『ルル』(2015、ネザール・オペラ、イングリッシュ・ナショナル・オペラ共同制作)、ザルツブルク音楽祭『ヴォツェック』(2017、カナディアン・オペラ・カンパニー、オーストラリア・オペラ共同制作)と世界のオペラ界を席卷するようになり、多くの歌劇場のレパートリーとして、また映像として定着しています。

### オペラファンには見逃せない！ 伸び盛りの若手モーツァルト歌手と指揮者が来日

旬の歌手を紹介したいという大野新監督の要望により、『魔笛』には新国立劇場初登場の歌手たちが来日します。タミー

ノには、オーストラリアのリリック・テノールで、タミーノ役でヨーロッパを駆け回っているスティーヴ・ダヴィスリム、パパゲーノはザルツブルク音楽祭で抜擢されアン・デア・ウィーン劇場、ジュネーヴ歌劇場などに登場、聴衆の圧倒的支持を受けているアンドレ・シュエン、ザラストロにはメロポリタン歌劇場を中心に躍進するサヴァ・ヴェミッチと、モーツァルト歌いとして世界の歌劇場を席卷する新世代の歌手たちが集結。パミーナにはフランスを拠点に活躍している林正子を迎え、おなじみの安井陽子、九嶋香奈枝らが出演します。指揮は世界有数の歌劇場でモーツァルト公演を次々と任せられ、ケントリッジの『魔笛』をミラノ・スカラ座でも指揮した俊英ローラント・ペーアが新国立劇場初登場を飾ります。

## <「魔笛」あらすじ>

【第1幕】森で大蛇に襲われ、恐ろしさの余り気絶してしまった王子タミーノ。そこに夜の女王に仕える3人の侍女がやってきて大蛇を退治し立ち去る。タミーノが目覚めると大蛇が死んでいるのにびっくり。やってきた鳥刺しのパパゲーノに尋ねてみると、大蛇を退治したのは自分だと誇らしげに語る。が、それは嘘で、罰として3人の侍女がパパゲーノの口に鍵をかけてしまう。3人の侍女は、夜の女王の娘パミーナの肖像画をタミーノに見せ、邪悪なザラストロにさらわれた彼女を救ってほしいと願う。パミーナに一目惚れしたタミーノは引き受ける。お礼に夜の女王は、タミーノに魔法の笛、口の鍵の解けたパパゲーノに銀の鈴を授ける。ザラストロの神殿にいるパミーナのもとにパパゲーノが行き、タミーノが助けにくることを伝える。喜ぶパミーナ。タミーノは神殿の門に到着するが、弁者によれば、ザラストロは暴君ではなく賢人で、高慢な夜の女王からパミーナをかかまっているのだという。そしてザラストロが登場。タミーノとパパゲーノは神殿に招き入れられる。

【第2幕】タミーノは、徳と正義を得るため神殿で試練を受けることに。これを経れば妻に会えると言われたパパゲーノも、しどろしどろ承諾する。一方パミーナのもとには夜の女王が現れ、ザラストロを殺せ、と命じて短剣を渡す。悩むパミーナに、ザラストロは、神殿では愛だけが暴力に打ち勝つ、と語る。タミーノとパパゲーノの最初の試練は、喋ってはいけない「沈黙」の試練。タミーノはパミーナとも喋れず、次の試練のため彼女と別れねばならない。彼の態度にパミーナは絶望して自殺をはかるが、3人の童子が止める。その後タミーノとパミーナは再会し、最後の「火」「水」の試練を2人で乗り越える。女房がほしいとぼやくパパゲーノは試練などお構いなしだが、努力は認められ、伴侶のパパゲーノと出会う。夜の女王たちは滅び、ザラストロ、タミーノ、パミーナたちは神を讃える。



© Elisabeth Carecchio  
Festival d'Aix-en-Provence 2009

## 大野和士のオペラ玉手箱 with Singers Vol.1『魔笛』開催！

10月の公演に先立ち、大野和士自らがピアノを弾き、カバー歌手の歌唱を交えながら、『魔笛』の魅力を紹介する特別イベントを開催いたします。大野の情熱的でユーモアたっぷりのトークには引き込まれること間違いなし、10月の本公演を十二分にお楽しみ頂けるよう、ぜひお越しください！

日時：9月10日(月)19:00

会場：新国立劇場オペラパレス

出演：大野和士(ピアノ、お話)、『魔笛』カバー歌手(後日発表)

料金：全席指定 会員1,080円、一般 1,620円 ※25歳以下の方は、U25優待メンバーズからの申込で無料！)

発売日：7月17日(火)10:00～

チケットのお申込み：

会員・一般：新国立劇場ボックスオフィス窓口・電話03-5352-9999 Web ボックスオフィス <http://nntt.pia.jp/>

チケットぴあ電話 0570-02-9999(Pコード 120-724)

25歳以下の方：U25優待メンバーズへ会員登録の上、お申込みください。<https://www.e-get.jp/nntt/pt/>

## ウィリアム・ケントリッジ スペシャルトーク

日時：9月30日(日)14:00

会場：新国立劇場オペラパレス ホワイエ

出演：ウィリアム・ケントリッジ 聞き手：森岡実穂

入場無料(全席自由) 申し込み開始：8/30(木)10:00～ 劇場ウェブサイトよりお申し込みください。

## <主要キャスト・スタッフプロフィール>

### 【指揮】ローラント・ベアー

Roland BÖER

ドイツ生まれ、ライン・ドイツ・オペラのレペティトゥール、フランクフルト歌劇場のカペルマイスターとして活躍する傍ら、アントニオ・パッパーノのアシスタントを務める。その後、ミラノ・スカラ座、ローマ歌劇場、フィレンツェ歌劇場、英国ロイヤルオペラ、ブラハ国立歌劇場、ブリュッセル・モネ劇場、ベルリン・ドイツ・オペラ、ベルリン・コミッシェ・オーパー、ウィーン・フォルクスオーパー、ストックホルム王立歌劇場など欧州各地の歌劇場に招かれ、『魔笛』『アドリアーナ・ルクヴルール』『リゴレット』『愛の妙薬』『ヴェニスに死す』など、幅広いレパートリーを指揮している。コンサートでも活躍し、スカラ・フィルハーモニー管弦楽団、ロンドン交響楽団、フィルハーモニア管弦楽団、ロイヤル・リヴァプール管弦楽団、フランクフルト放送交響楽団、バンベルク交響楽団、オスロ・フィルハーモニー管弦楽団、ベルゲン・フィルハーモニー管弦楽団、スコティッシュ・チェンバー・オーケストラ、アンサンブル・モデルンなどに登場している。2005年にイングリッシュ・ナショナル・オペラに『皇帝ティトの慈悲』、ローマ・サンタ・チェチリア管弦楽団に『コジ・ファン・トゥッテ』でデビューした後は特にモーツァルト指揮者として評価されており、ミラノ・スカラ座、英国ロイヤルオペラ、ベルリン・ドイツ・オペラで『魔笛』、ポーランド国立歌劇場、ローマ歌劇場で『フィガロの結婚』、フランクフルト歌劇場『イドメネオ』などを指揮している。17/18 シーズンはミハイロフスキー劇場で『魔笛』『仮面舞踏会』『フィガロの結婚』、ニース歌劇場『愛の妙薬』、フランクフルト歌劇場『エンリーコ』(トロヤン作曲)、リンツ歌劇場『ヴェニスに死す』などを指揮。18/19 シーズンは、ニース歌劇場『放蕩者の遍歴』、フランクフルト歌劇場『ファウストの劫罰』などの予定がある。2009年よりカンティエーレ国際芸術祭音楽監督、15年からは芸術監督。18/19 シーズンよりミハイロフスキー劇場(サンクトペテルブルク)首席客員指揮者。新国立劇場初登場。



### 【演出】ウィリアム・ケントリッジ

William KENTRIDGE

南アフリカ生まれ。ドローイング、アニメーションフィルム、演劇活動やオペラ演出で国際的に評価されている現代美術家。政治学及びアフリカ学を学んだ後、ヨハネスブルク・アート・ファンデーションさらにパリ・エコール・ルコックで学ぶ。その活動は様々な手法やジャンルの相互的な融合から生まれ、南アフリカの社会的背景である植民地主義やアパルトヘイトといった負の遺産が反映されている。パステルや木炭のドローイングをコマ撮りした映像作品が多く、その理論は、ストップモーションから初期の特殊効果に至る映画の技術史そのものから獲得されている。彫刻、タペストリーなど、様々な分野でも活躍している。1990年代より国際的に評価を高め、カッセルのドクメンタ、ニューヨーク近代美術館、ウィーン・アルベルティーナ、サンフランシスコ近代美術館、フィラデルフィア美術館、ルーヴル美術館、メトロポリタン美術館などで個展が開かれているほか、ゴスラーの皇帝の指環賞、カーネギー賞、スタンダード銀行ヤングアーティスト賞、レッドリボン短編映画賞、京都賞、フランス芸術文化勲章コマンドゥール、アストウリアス皇太子賞など、受賞歴も枚挙のいとまがない。近年の作品に、5画面の映像と音によるインスタレーション「時間の抵抗(The Refusal of Time)」(2012年、ドクメンタ 13)、8画面のビデオプロジェクションによる「More Sweetly Play the Dance」(2015年、アムステルダム)、3画面の「Notes Toward a Model Opera」(2015年、北京展覧館)、「Triumphes & Laments(勝利と嘆き)」(2016年、ローマ、テヴェレ川の壁面の汚染を高圧洗浄して製作した全長 500m の壁装飾。フィリップ・ミラーの音楽のライブ演奏と影絵の行列を伴う)などがあり、18年はニューヨークのアーモリーショー、ロンドンのテート・モダンで作品を発表する。近年はオペラ演出も多く、『ウリッセの帰還』『魔笛』『鼻』『ルル』『ヴォツェック』といった作品で、ブリュッセル・モネ劇場、エクサンプロヴァンス音楽祭、イングリッシュ・ナショナル・オペラ、リヨン歌劇場、ネザーランド・オペラ、ザルツブルク音楽祭、メトロポリタン歌劇場、ミラノ・スカラ座などに登場している。新国立劇場初登場。



Photo by Marc Shoul

### 【ザラストロ】サヴァ・ヴェミッチ

Sava VEMIC

セルビア、ベオグラード生まれ。メトロポリタン歌劇場リンデマン・ヤングアーティスト・プログラムで学び、ジェームズ・レヴァインの指導を受ける。2015/2016 シーズンにはメトロポリタン歌劇場とジュリアード音楽院の共同企画『夢遊病の女』ロドルフォ伯爵、オペラ・オーケストラ・ニューヨーク『パリジーナ』(ドニゼッティ)エルネスト、カーネギーホールでのモーツァルト『戴冠ミサ』バスソロ、テルアビブでの『後宮からの誘拐』オスミン、ベオグラード『魔笛』ザラストロ、続いて 16/17 シーズンにはメトロポリタン歌劇場に『ナブッコ』ベルの祭司長でデビューした他、ボストン・ユース・オーケストラ『エウゲニ・オネーギン』グレーミン公爵、カーネギーホールでのハイドン『ネルソン・ミサ』バスソロなどを歌っている。17/18 シーズンはハワイ・オペラで『エウゲニ・オネーギン』グレーミン公爵、エクサンプロヴァンス音楽祭『ナクソス島のアリアドネ』下僕、ヴェルビエ音楽祭『リゴレット』スパラフチャーレ、『アドリアーナ・ルクヴルール』キノーなどに出演している。18/19 シーズンにはパリ・オペラ座に『ムツェンスク郡のマクベス夫人』軍曹でデビュー予定。リンカーンセンター、ブルーノ・ワルター・オーディトリウムで定期的によりサイタルを開催している。ベルヴェデーレ国際声楽コンクールをはじめ、受賞歴も多い。新国立劇場初登場。



**【タミーノ】スティーヴ・ダヴィスリム****Steve DAVISLIM**

オーストラリア出身。イェスタ・ヴィンベルイ、ニール・シコフ、ルイジ・アルヴァに学んだ後、チューリヒ歌劇場のオペラスタジオのメンバーとなる。チューリヒ歌劇場のアンサンブル・メンバーとなり、『セビリアの理髪師』アルマヴィーヴァ伯爵、『ルル』画家、『コジ・ファン・トゥッテ』フェルランドなど多くの作品に出演。その後はベルリン州立歌劇場、英国ロイヤルオペラ、シュヴェツィンゲン音楽祭、ルードヴィヒスブルク音楽祭、シカゴ・リリック・オペラ、メトロポリタン歌劇場、ミラノ・スカラ座、ドレスデン、バルセロナ、マドリッドなど世界各地の一流歌劇場で活躍している。タミーノ役はミラノ・スカラ座でケントリッジのプロダクションに出演しているほか、ザクセン州立歌劇場、チューリヒ歌劇場などでも歌っている。上記の諸役のほか、『イドメネオ』タイトルロール、『魔弾の射手』マックス、『放蕩者のなりゆき』トム・レイクウェルなど幅広いレパートリーを誇る。最近では、ジュネーヴ歌劇場『コジ・ファン・トゥッテ』フェルランド、グラインドボーン音楽祭及びBBCプロムスで『皇帝ティートの慈悲』ティートなどに出演している。このほかコンサートでも多くの一流オーケストラに客演、CDも多く発売されている。新国立劇場初登場。

**【夜の女王】安井陽子****YASUI Yoko**

桐朋学園大学卒業、同大学院研究科修了。二期会オペラスタジオ修了。文化庁在外研修員としてウィーン国立音楽大学に留学。クラーゲンフルト市立劇場のヘンツェ『若き貴族』イーダで欧州デビュー。以来『魔笛』夜の女王、オッフェンバック『青いひげ』ロザリンデで好演。国内では『ナクソス島のアリアドネ』ツェルビネッタなどに出演。新国立劇場では『ジークフリート』森の小鳥、『鹿鳴館』顕子、『ばらの騎士』ゾフィー、『魔笛』夜の女王、『アラベッタ』フィアッカミツリ、『ファルスタッフ』ナンネッタ、バレエ『カルミナ・ブラーナ』ソプラノ・ソリスト、『ホフマン物語』オランピアなどに出演。二期会会員。

**【パミーナ】林 正子****HAYASHI Masako**

東京藝術大学卒業。同大学院、二期会オペラスタジオ修了。ジュネーヴ音楽院ソリスト・ディプロマ取得。五島記念文化賞オペラ新人賞受賞。スイス・ロマン管弦楽団『ドイツ・レクイエム』に出演するほかオーストリアでの音楽祭、テアトロ・サンカルロでのヴェルディ『レクイエム』などヨーロッパを拠点に活動。国内では新国立劇場・二期会共催『忠臣蔵』お艶、東京二期会・ベルギー王立モネ劇場提携『ニュルンベルクのマイスタージンガー』エーファ、東京二期会・ハンブルク州立歌劇場共同制作『皇帝ティートの慈悲』ヴィテツリアなどで出演し高い評価を得ている。近年では東京二期会『サロメ』『ダナエの愛』『ナクソス島のアリアドネ』の主演を演じるほか、2017年東京二期会『ばらの騎士』元帥夫人では表現力豊かな演唱で高い評価を得ている。コンサートでも読売日響定期演奏会『神々の黄昏 第3幕』グートルーネ、同定期演奏会『夢見るゲルゲ』ゲルトラウトなどソリストとしても活躍中。新国立劇場では『椿姫』フローラ、『忠臣蔵』お艶で出演している。フランス在住。二期会会員。

**【パパゲーノ】アンドレ・シュエン****Andrè SCHUEN**

イタリア、南チロル生まれ。チェロを学んだ後、ザルツブルク・モーツァルテウム音楽院で声楽を学ぶ。2010年にはザルツブルク音楽祭のヤング・アーティスト・プロジェクトに選ばれ、ザルツブルク音楽祭でサイモン・ラトル指揮『サロメ』、リッカルド・ムーティ指揮『マクベス』、アイヴォー・ボルトン指揮『夜鳴きうぐいす』に出演、2012年にはイースター音楽祭、夏の音楽祭ともに『カルメン』モラレスに出演、CD化されている。2010～2014年はグラーツ歌劇場のアンサンブルに所属、多くの役を演じた。またニコラウス・アーノンクール指揮のアン・デア・ウィーン劇場でのダ・ポンテ三部作では『ドン・ジョヴァンニ』タイトルロール、『コジ・ファン・トゥッテ』グリエルモを演じている。ここでの成功によりオーストリア音楽・劇場賞を聴衆の圧倒的な評価を受けて受賞した。アン・デア・ウィーン劇場では多く出演しているほか、ジュネーブ、モンペリエ、ペルミなどの歌劇場に出演、ルネ・ヤーコプス、テオドル・クルレンツィスらと共演している。17/18シーズンにはドン・ジョヴァンニ役でナンシー歌劇場、ルクセンブルク歌劇場で出演したほか、トリノ王立歌劇場『コジ・ファン・トゥッテ』グリエルモに出演した。今後の予定に、ブレゲンツ音楽祭『獵銃 Das Jagdgewehr』(ラルヒャー作曲、世界初演) 穰介、マドリッド王立歌劇場『カプリッチョ』オリヴィエなどに出演予定。2016年には初CDでエコー・クラシック音楽賞のヤングアーティスト賞を受賞。新国立劇場初登場。



**【パパゲーナ】九嶋香奈枝****KUSHIMA Kanae**

東京藝術大学卒業。新国立劇場オペラ研修所第4期修了。文化庁派遣在外研修員としてミラノに留学。2005年にはギリシャ・アテネにて『魔笛』（ミハエル・ハンペ演出）に招聘され出演。第54回全日本学生音楽コンクール第1位、HIMESコンクール第1位。東京二期会『魔笛』パパゲーナ、『フィガロの結婚』スザンナ、『こうもり』アデーレ、びわ湖ホール『死の都』ユリエッテ、パンフィック・ミュージック・フェスティバル『ナクソス島のアリアドネ』ナヤードなどに出演している。新国立劇場では『愛の妙薬』ジャンネッタ、『フィガロの結婚』バルバリーナおよびスザンナ、『ドン・ジョヴァンニ』ツェルリーナ、『パルジファル』小姓1、『ジークフリート』森の小鳥、高校生のためのオペラ鑑賞教室『カルメン』フラスキータ、『コジ・ファン・トゥッテ』（演奏会形式）デスピーーナなどに出演。18/19シーズンには『ドン・ジョヴァンニ』ツェルリーナにも出演する。二期会会員

**【モノスタス】升島唯博****MASUJIMA Tadahiro**

エリザベト音楽大学卒。卒業後渡独。リュベック音楽大学で学ぶ。オランダ・オイレギオ国際声楽コンクール優勝など受賞多数。ドイツ各地で『道化師』『イル・トロヴァトーレ』『魔笛』などに出演。2012年あらかわバイロイト『ラインの黄金』ローゲ、ミーメで東京デビュー。13年日生劇場『フィデリオ』ヤッキーノ、14年小澤征爾音楽塾『フィガロの結婚』ドン・クルツィオ、15年東京二期会『魔笛』（宮本亜門演出）僧侶Ⅱ、16年同『ナクソス島のアリアドネ』舞踏教師、17年同『ばらの騎士』ヴァルツァッキなどに出演。新国立劇場では17年『ばらの騎士』元帥夫人の執事で出演している。二期会会員。



平成 30 年度(第 73 回)文化庁芸術祭主催公演  
 新国立劇場 2018/2019 シーズン  
 ヴォルフガング・アマデウス・モーツァルト  
 魔 笛

Wolfgang Amadeus MOZART / Die Zauberflöte  
 全2幕<ドイツ語上演/字幕付>

\*10月13日・14日公演は日本語字幕に加え英語字幕を表示予定

【公演日程】2018年10月3日(水)18:30/6日(土)14:00/8日(月・祝)14:00/10日(水)14:00/  
 13日(土)14:00/14日(日)14:00

【会場】新国立劇場 オペラパレス

【チケット料金】S:27,000円・A:21,600円・B:15,120円・C:8,640円・D:5,400円・Z:1,620円

【前売開始】2018年6月23日(土)

指揮	ローラント・ベーア
Conductor	Roland BÖER
演出	ウィリアム・ケントリッジ
Production	William KENTRIDGE
演出補	リュック・ド・ヴィット
Co-director	Luc DE WIT
美術	ウィリアム・ケントリッジ、ザビーネ・トイニッセン
Set Design	William KENTRIDGE, Sabine THEUNISSEN
衣裳	グレタ・ゴアリス
Costume Design	Greta GOIRIS
照明	ジェニファー・ティプトン
Lighting Design	Jennifer TIPTON
プロジェクション	キャサリン・メイバーク
Projection Design	Catherine MEYBURGH
映像オペレーター	キム・ガニング
Video Operator	Kim GUNNING
照明監修	スコット・ボルマン
Supervisor for the Lighting	Scott BOLMAN
舞台監督	高橋尚史
Stage Manager	TAKAHASHI Naohito
ザラストロ	サヴァ・ヴェミッチ
Sarastro	Sava VEMIC
タミーノ	スティーヴ・ダヴィスリム
Tamino	Steve DAVISLIM
弁者・武士 II	成田 眞
Sprecher und zweiter Geharnischer	NARITA Makoto
僧侶・武士 I	秋谷直之
Eingeweihter und erster Geharnischer	AKITANI Naoyuki
夜の女王	安井陽子
Königin der Nacht	YASUI Yoko
パミーナ	林 正子
Pamina	HAYASHI Masako
侍女 I	増田のり子
Erste Dame	MASUDA Noriko
侍女 II	小泉詠子
Zweite Dame	KOIZUMI Eiko
侍女 III	山下牧子
Dritte Dame	YAMASHITA Makiko
童子 I	前川依子
Erster Knabe	MAEKAWA Yoriko
童子 II	野田千恵子
Zweiter Knabe	NODA Chieko
童子 III	花房英里子
Dritter Knabe	HANAFUSA Eriko
パパゲーナ	九嶋香奈枝
Papagena	KUSHIMA Kanae
パパゲーノ	アンドレ・シュエン

Papageno	Andrè SCHUEN
モノスタス	升島唯博
Monostatos	MASUJIMA Tadahiro
合唱指揮	三澤洋史
Chorus Master	MISAWA Hirofumi
合唱	新国立劇場合唱団
Chorus	New National Theatre Chorus
管弦楽	東京フィルハーモニー交響楽団
Orchestra	Tokyo Philharmonic Orchestra
芸術監督	大野和士
Artistic Director	ONO Kazushi
主催	文化庁芸術祭執行委員会／新国立劇場

Production of Aix-en-Provence Festival and Rouen Opera, created at Théâtre de la Monnaie in 2005

※『魔笛』(ドイツ語上演)の10月13日(土)・14日(日)公演では、日本語字幕に加え、英語字幕を表示する予定です。

公演情報 WEB サイト <https://www.nntt.jac.go.jp/opera/die-zauberflote/>

【チケットのご予約・お問い合わせ】 新国立劇場ボックスオフィス TEL:03-5352-9999 (10:00~18:00)

新国立劇場Webボックスオフィス <http://pia.jp/nntt/>

【チケット取り扱い】チケットぴあ、イープラス、ローソンチケットほか

- \* 2席 1,620円: 公演当日朝 10時より、新国立劇場 Web ボックスオフィスほかで販売。1人1枚。電話予約不可。
- \* 当日学生割引(50%)、ジュニア割引、高齢者割引、障害者割引、学生割引など各種割引あり。\* 未就学児入場不可。

『魔笛』関連イベント

## 大野和士のオペラ玉手箱 with Singers Vol.1『魔笛』

10月の公演に先立ち、大野和士自らがピアノを弾き、カバー歌手の歌唱を交えながら、『魔笛』の魅力を紹介する特別イベントを開催いたします。

日時:9月10日(月)19:00

会場:新国立劇場オペラパレス

出演:大野和士(ピアノ、お話)、『魔笛』カバー歌手(後日発表)

料金:全席指定 会員1,080円、一般 1,620円 ※25歳以下の方は、U25優待メンバーズからの申込で無料!

発売日:7月17日(火)10:00~

チケットのお申し込み:

<会員・一般>新国立劇場ボックスオフィス窓口・電話、Web ボックスオフィス、チケットぴあ電話

<25歳以下の方>U25優待メンバーズへ会員登録の上、お申込みください。 <https://www.e-get.jp/nntt/pt/>

## ウィリアム・ケントリッジ スペシャルトーク

日時:9月30日(日)14:00

会場:新国立劇場オペラパレス ホワイエ

出演:ウィリアム・ケントリッジ、聞き手:森岡実穂

入場無料(全席自由) 申し込み開始:8/30(木)10:00~ 劇場ウェブサイトよりお申し込みください。

新国立劇場 WEB サイト <https://www.nntt.jac.go.jp> 東京都渋谷区本町 1-1-1 京王新線新宿駅より1駅、初台駅直結。